

科目名	教材・授業研究 I (言語)	担当教員	前嶋深雪
科目属性	専門科目 A群	単位数	2単位 (面接0.5単位)
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>本授業では、授業づくりのための教材研究を含め、実践的指導力を高めることを目指しています。言語（国語科）の教科指導は、言葉への深い理解という基礎があってはじめて可能になります。世界中にある数多くの言語の中の一つとしての日本語の特徴をとらえること、日本語の変遷の歴史を知ること——つまりは、言語学の知識と日本語学の知識の獲得——によって、教材の扱い方と授業展開の幅を広げていきます。</p> <p>日本語という言語の特質をつかむことにより、児童生徒が「みずから考え」「言葉を扱うことをおもしろいと感じ」、同時に「読みを深める」ための指導の方法と教材の提供を容易にしていきます。</p> <p>また、文章の構造分析の力も大切です。国語の教科書には、説明文や物語文がテキストとして採録されています。説明文の構造、物語文の構造をきちんととらえるにはレッスンが必要です。そして、構造をとらえられなければ、文章を正しく読み取ることはできません。</p> <p>新学習指導要領には〔知識及び技能〕と〔思考力・判断力・実践力〕として、日本語についての理解と言語能力を身につけ、他者とのやりとりのために必要な日本語運用の育成を目指しています。言語（日本語）の学びは、コミュニケーション能力の育成という「生きる力」を支えるための大事な基盤となります。本授業の具体的な到達目標は、以下の4つとなっています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言語学と日本語学の知識を持ち、言葉（日本語）に対する理解を深める 2. 新学習指導要領の鍵概念となる「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の視点を理解する 3. 児童生徒が日本語の仕組みについて学び、考え、理解するために、〔知識及び技能〕に関する日本語の理解を深める 4. 〔思考力・判断力・実践力〕に関する「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」の授業づくりのための視点を獲得 <p>【授業計画】</p> <p>全15回（2単位）の講義内容における学修量は、以下のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国語（日本語）と言語の性質についての理解/新学習指導要領（総則）に関連して（第1回～第4回相当） <ol style="list-style-type: none"> ①日本語の特徴 ②言語能力 言語の性質の理解と言語の持つ力の理解 ③対話的な学び 対話を形づくるもの（揺らいでいくルール） ④言語活動 言語の枠組みとしての構造の理解 2. 言語と言語文化及び言葉と情報/新学習指導要領の〔知識及び技能〕に関連して（第5回～第10回相当） <ol style="list-style-type: none"> ①語彙指導 語彙の性質の理解 ②国語科の目標 日本語の学びを深めるための視点（テクニカルタームから） ③情報活用能力 国語科と情報の学びの関連（リサーチリテラシーの視点） ④言語と言語文化① 歴史的な視点を踏まえた言語観・テキスト観 ⑤言語と言語文化② 言葉・テキストの歴史との相関 ⑥言語と言語文化③ パラダイムシフト/古典作品を概観する 			

3. 書記言語と音声言語〔思考力・判断力・実践力〕に関連して

(第11回～第13回相当)

- ①話すこと・聞くこと(話し合うこと) 音声言語の特徴(話す身体と環境の相関)
- ②書くこと 書記言語の特徴(文字の言語環境という視点)
- ③読むこと テキストを仕立て上げる言葉(ネットワークの視点)

4. まとめと確認 (第14回～第15回相当)

- ①教材研究の視点(単元の構成・授業構成の考え方)
- ②やさしい日本語(日本語教育に関連して)

【評価方法】

評価については、レポート(2本)35%、スクーリング35%、科目修得試験30%の割合で総合しての評価となります。

レポートの提出は、スクーリング前までに1本、スクーリング後に提出1本となります。レポートテーマは、学修指導書に挙げた4つのテーマからの自由選択です。

レポートの目的は、基礎知識の充実です。言語学や日本語学中心のテーマとなっています。すべてを面接・対面方式のスクーリング授業で学ぶのではなく、通信制大学院の良さを生かし、みずから学び、深めることのできる知識をレポートで深めてください。

【教科書】

工藤浩 他『改訂版日本語要説』(ひつじ書房、2009) ISBN: 9784894764682

【参考図書】

ソシュール『一般言語学講義』(小林英男訳 岩波書店、1972) ISBN: 9784000000895

谷口一美『学びのエクササイズ 認知言語学』(ひつじ書房、2006) ISBN: 9784894762824

小松英雄『日本語はなぜ変化するか 母語としての日本語の歴史』(笠間書院、1999)

ISBN: 978-4305701848

町田守弘『国語科の教材・授業開発論 ―魅力ある言語活動のイノベーション』

(東洋館出版社、2009) ISBN: 9784491025049

世羅博昭『6年間の国語能力表を生かした国語科の授業づくり』(日本標準、2005)

ISBN: 9784820802587

橋爪大三郎『はじめての構造主義』(講談社現代新書、1988) ISBN: 9784061488984

加賀野井秀一『20世紀言語学入門構造主義』(講談社現代新書、1988)

ISBN: 9784061492484

立川健二・山田広昭『現代言語論』(新曜社、1990) ISBN: 9784788503724

橋爪大三郎・大澤真幸『げんきな日本論』(講談社現代新書、2016)

ISBN: 9784062883917

教育課程研究会編著『アクティブ・ラーニングを考える』(東洋館出版者、2016)

ISBN: 9784491031859

キャサリン・ベルギー(訳・解説 折島正司)『ポスト構造主義』(岩波書店、2003)

ISBN: 9784000268691

河野哲也『エコロジカル・セルフ』(ナカニシヤ出版、2011) ISBN: 9784779505485